## 位相意味論

宇田津 孝介

**JAIST** 

November 20, 2022

### 流れ

- 近傍意味論とは何か
- ② 近傍意味論の形式的定義
- ③ 近傍意味論によるモデルの例
- 位相空間上で近傍意味論
- ⑤ 位相意味論における認識論理の解釈

### 近傍意味論

- 普通の様相論理の到達可能関係を,より一般化させたもの
  - 普通の様相論理の関係は,可能世界から可能世界へ到達するような関係であるのに対し, 近傍意味論の関係は,可能世界から可能世界の集合へ到達するような関係である。
- 非正規な様相論理にも扱うことができる

近傍意味論における可能世界wの近傍とは,wから到達可能な可能世界の集合のことである.

- 近傍意味論における w の「近傍」は, w を含んでいなくてもよい.
- 位相空間 X における x の「近傍」は、x を含む X の部分集合全てである.

## 近傍意味論の形式的定義(1/2)

#### Definition (言語)

論理式 $\varphi$ は以下のように定義される.

$$\varphi := p \mid \bot \mid \top \mid \neg \varphi \mid (\varphi \land \psi) \mid (\varphi \lor \psi) \mid (\varphi \to \psi) \mid (\varphi \leftrightarrow \psi) \mid \Box \varphi \mid \Diamond \varphi \quad (p \in \mathsf{At})$$

At は原子論理式の集合.

#### Definition

Neighborhood model  $\mathcal{M} = \langle W, N, V \rangle$  は, 以下の W, N, V からなる 3 つ組である.

- W は空でない可能世界の集合
- $N: W \to \mathcal{P}(\mathcal{P}(W))$  it neighborhood function.
- $V: \mathbf{At} \to \mathcal{P}(W)$  は付置関数.
  - At は原子論理式の集合.

## 近傍意味論の形式的定義(2/2)

#### Definition

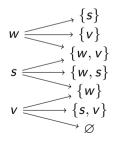
Neighborhood model M と任意の可能世界  $w \in W$  に対して、論理式  $\varphi$  の真理値は以下のように帰納的に定義される.:

- $\bigcirc$   $\mathcal{M}$ ,  $w \nvDash \bot$ .

ただし、 $\llbracket \varphi \rrbracket_{\mathcal{M}} = \{ w \mid \mathcal{M}, w \models \varphi \}$  である.

# 近傍意味論の例 (1/2)

- $W = \{w, s, v\}$
- $N(w) = \{\{s\}, \{v\}, \{w, v\}\}.$
- $N(s) = \{\{w, v\}, \{w, s\}, \{w\}\}.$
- $N(v) = \{\{w\}, \{s, v\}, \varnothing\}.$
- $V(p) = \{w, s\}, V(q) = \{s, v\}$



- $\llbracket \neg p \rrbracket_{\mathcal{M}} = \{v\} \notin \mathit{N}(s) \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \mathcal{M}, s \models \Diamond p.$
- $\llbracket \bot \rrbracket_{\mathcal{M}} = \varnothing \in \mathit{N}(v)$   $\gimel$   $\flat$  ,  $\mathcal{M}, v \models \Box \bot$

# 近傍意味論の例 (2/2)

$$\Box T$$
 が成り立たない:

$$\Box p \rightarrow \Diamond p$$
 が成り立たない:



### 近傍を位相空間の近傍にしてみた

近傍意味論の「近傍」を位相空間における「近傍」にするにはどうすれば良いのか?

• 自己を含む集合全てに到達可能であり、かつそれにのみ到達可能であればよい.

#### Definition

W が非空集合,  $\mathcal{O} \subset \mathcal{P}(W)$  であるとする. このとき,

$$W \times \mathcal{O} = \{(w, U) \mid w \in W, U \in \mathcal{O}, w \in U\}$$

を neighborhood situations といい, W, O からなる 2 つ組 (W, O) を subset space という.

### Interior Semantics

K は様相演算子  $\square$  に対応する認識論理の様相演算子である.  $K\varphi$  で " $\varphi$  を知っている" を意味する.

#### Definition

位相空間  $(X,\tau)$ (位相構造 $\tau$  を持つ集合 X) と評価関数  $v: At \longrightarrow \mathcal{P}(X)$  からなる 3 つ 組  $\mathcal{M} = (X,\tau,v)$  を topological model といい, 様相論理の論理式に対して, 以下の意味論が帰納的に定義される::

ただし,  $[\![\varphi]\!]_{\mathcal{M}} = \{w \mid \mathcal{M}, w \models \varphi\}$  である.

### どう解釈すれば良いのか

- 位相空間の近傍
  - エージェントが直接観察できる証拠
- 開近傍が有限個の共通部分に関して閉じている
  - エージェントは証拠が有限個であれば、一つの証拠へ組み合わせることができる.
  - 無限個の証拠を, 一つの証拠へ組み合わせるほどの能力はない.
- $w \in P$ (命題 P は、可能世界 w において真) 開集合  $U \subseteq P$
- Pを証拠付ける真なる証拠 U■ 開集合
  - エージェントが立証可能な特性
- 閉集合
  - エージェントが反証可能な特性
  - $\bullet \ \llbracket \neg \varphi \rrbracket_{\mathcal{M}} = X \llbracket \varphi \rrbracket_{\mathcal{M}}$

## なぜ $\llbracket K\varphi rbracket_{\mathcal{M}} = Int_{\tau}(\llbracket \varphi rbracket_{\mathcal{M}})$ なのか

 $Int_{\tau}(\llbracket \varphi \rrbracket_{\mathcal{M}})$  に含まれる可能世界は、 $\neg \varphi$  を真とするような全ての可能世界と区別できるから.

- $Int_{\tau}(\llbracket\varphi\rrbracket_{\mathcal{M}})$  に含まれる現実世界から  $Int_{\tau}(\llbracket\varphi\rrbracket_{\mathcal{M}})$  に含まれない可能世界全てを区別することができるから、「 $\varphi$  を知っている」と言える.
- $Cl_{\tau}(\llbracket \varphi \rrbracket_{\mathcal{M}})$  ならば、 $\neg \varphi$  を真とするような可能世界を含む場合もあり得るようになる.
  - ⇒ 間違った情報を持つことがあり得るようになる.
- 逆に、Stalnaker の "信念" の定義には CI を用いる (一般的に、間違う可能性がある信念は、良い信念の概念である、とされている。)

#### Definition

$$\llbracket B\varphi 
rbracket_{\mathcal{M}} = \mathit{CI}_{\tau}(\mathit{Int}_{\tau}(\llbracket \varphi 
rbracket_{\mathcal{M}})).$$

 $\varphi$  を知っているとは限らない.

## StalnakerのKBの公理

	Stalnaker's Epistemic-Doxastic Axiom	
(K)	${\sf K}(arphi  o \psi)  o ({\sf K}arphi  o {\sf K}\psi)$	Knowledge is additive
(T)	${\sf K}arphi  ightarrow arphi$	Knowledge implies truth
(KK)	${\sf K}arphi o{\sf K}{\sf K}arphi$	Positive introspection for K
(CB)	Barphi  ightarrow  eg B  eg arphi.	Consistency of belief
(PI)	$Barphi o {\sf K} Barphi.$	(Strong) positive introspection of B
(NI)	eg Barphi  ightarrow K  eg Barphi.	(Strong) negative introspection of B
(KB)	$\mathcal{K}arphi o Barphi.$	Knowledge implies Belief
(FB)	${\cal B}arphi o{\cal B}{\cal K}arphi.$	Full Belief
	Inference Rules	
(MP)	From $arphi$ and $arphi  ightarrow \psi$ infer $\psi$	Modus Ponens
(K-nec)	From $arphi$ infer $Karphi$	Necessitation